

令和6年度

事業報告書 （評議員会資料）

（自）令和6年（2024年）4月 1日

（至）令和7年（2025年）3月31日

令和7年（2025年）6月25日

社会福祉法人 鹿島市社会福祉協議会

令和6年度 事業報告書

目 次

事業項目等	頁
○ はじめに（鹿島市社協の概要）	1
1. 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施	2
2. 社会福祉に関する活動への市民のための支援	4
3. 社会福祉を目的とする事業に関する 調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成	5
4. 社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業	7
5. 保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡	8
6. 共同募金事業	9
7. 福祉サービス利用援助事業	10
8. 福祉資金貸付事業	11
9. 鹿島市ボランティア活動センター運営	13
10. 自立相談支援事業（生活困窮者自立支援事業）	15
11. 就労準備支援事業（生活困窮者自立支援事業）	16
12. 家計改善支援事業（生活困窮者自立支援事業）	17
13. 生活困窮者支援機能強化事業（生活困窮者自立支援事業）	18
14. 生活支援体制整備事業	21
15. 福祉バスの運行管理事業	27
16. その他この法人の目的達成のために必要な事業	27
（参考資料）	
・ 資金収支決算概要書（決算関係）	29
・ 会費、寄付金、募金等の状況	33
・ 組織図、職員配置一覧、役員等名簿	34

1. 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施

(1) 理事会の開催状況

会議名	開催日	内 容
第1回理事会	6月10日	議案第1号 評議員（補充）候補者の推薦について 議案第2号 評議員選任・解任委員会（第1回）の招集について 議案第3号 評議員会（定時）の招集について 議案第4号 令和5年度 事業実績並びに資金収支決算について
第2回理事会	11月6日	議案第1号 評議員（補充）候補者の推薦について 議案第2号 評議員選任・解任委員会（第2回）の招集について 議案第3号 職員就業規則の全部改正について 議案第4号 職員給与規程の全部改正について
第3回理事会	1月23日	報告第1号 令和6年度 中間監査（監事会）の報告について 報告第2号 令和6年度 法人監査指導における指摘事項改善状況の報告について 議案第1号 役員等賠償責任保険に係る保険契約の内容について
第4回理事会	3月24日	議案第1号 令和7年度 事業計画並びに資金収支予算について 議案第2号 職員給与規程の一部を改正する規程の制定について 議案第3号 経理規程の一部を改正する規程の制定について

(2) 評議員会の開催状況

会議名	開催日	内 容
定時評議員会	6月26日	議案第1号 令和5年度 事業実績並びに収支決算について

(3) 評議員選任・解任委員会の開催状況

会議名	開催日	内 容
第1回評議員選任・解任委員会	6月12日	議案第1号 評議員の補充選任について
第2回評議員選任・解任委員会	11月12日	議案第1号 評議員の補充選任について

(4) 監事会の開催状況

会議名	開催日	内 容
第1回監事会 （決算監査）	5月23日	令和5年度 事業報告並びに資金収支決算について その他、業務執行状況及び決算諸表等関係書類について
第2回監事会 （中間監査）	12月3日	令和5年度 上半期 業務並びに会計（資金収支）について

(5) 職員の資質向上と人材育成、職場環境改善

自主的な研修の推奨、研修会の開催や、県社協、地域主催の研修会に積極的に参加し、他職員への伝達を行いました。

また、安心して働ける職場環境づくりのために、職員の就業規則や給与規程の改正を行いました。今後も職員の働きやすい環境に配慮していくため、労務管理の適正化に努めます。

(職場規律の確保の取組み)

- ・毎日、職員朝礼を実施
- ・毎週月曜日に「週間業務調整会議」を行い、情報共有、事業や業務課題の整理
- ・毎週、火曜日は、定例の「会長決裁日」
- ・毎月1回、会長との打合せ（各係長から業務進捗状況の報告など）
- ・適時の「起案」、「復命」など、課内の「ハウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）」の徹底
- ・市内、市外を問わず、各種の研修会、イベント、集まり、会議等には積極的に出向く
- ・ファイリングシステムの導入（文書管理、執務環境の整理）

(6) 財政基盤の強化

①社協会員の加入促進 【会費募集総額 5,256,130円】

一般会員と特別会員は、5～6月を推進月間として、区長会の協力を得て推進しました。

(一般会費1口500円 個人会費1口1,000円 団体会費1口3,000円 法人会費1口10,000円)

地区名	目標世帯数	一般会員	個人会員	団体会員	法人会員	金額	加入率
	戸	口	口	口	口	円	%
鹿島	5,000	4,601.1	3	-	-	2,303,550	92.1
能古見	1,014	879.5	27	-	-	466,750	92.1
古枝	863	855.0	5	-	-	432,500	100.2
浜	940	802.0	5	-	-	406,000	86.4
北鹿島	1,172	933.7	12	-	-	478,830	81.7
七浦	840	713.0	0	-	-	356,500	84.9
小計	9,829	8,773.3	52	-	-	4,444,130	90.3
社協事務局			122	90	42	812,000	
合計		8,773.3	174	90	42	5,256,130	

(前年度実績 5,135,750円)

②地域福祉活動促進のための財源確保 【寄付・売上等総額 6,828,354円】

②-1 寄付金の受付

(前年度実績 7,268,294円)

寄付金区分	件数	金額	前年度実績
追善(香典返し)寄付金	173件	4,668,000円	176件 4,858,000円
篤志寄付金	26件	307,041円	23件 706,553円
福祉バス利用寄付金	79件	718,000円	86件 747,300円
福祉用具借用寄付金	0件	0円	0件 0円

②-2 ほっとスポット(常設バザー販売所)の設置

年間を通して、バザー用品の提供を受け付け、販売する常設コーナーを社協事務所隣に開設し、1,034,130円の売上実績を収めました。(前年度実績 872,450円)

収益金は、地域の趣味づくり・生きがいくくり、ボランティア活動支援、サロン推進事業などに有効に活用しました。

②-3 書き損じハガキ募集

集まった書き損じハガキは、101,183円の切手と交換していただきました。

(前年度実績 83,991円) 社協事務所窓口に回収箱を設置しています。

～各種寄付金やバザーの売上金は、鹿島市の地域福祉のための貴重な財源です！～

- ・地域での見守り、助け合い活動や、高齢者の集いの場（サロン）の開設促進
- ・ボランティア活動、災害ボランティア活動への支援
- ・高齢者や障がい者、ケガをされている方への、一時的な福祉用具の貸出
- ・社協マイクロバス（福祉バス）の運行経費
- ・生活お困りごとに関する総合的な相談窓口（断らない支援） など



2. 社会福祉に関する活動への市民の参加のための支援

(1) ふれあいいきいきサロンの設置推進と強化

地区の公民館などに定期的に集まり、高齢者と地区の協力者が一緒に介護予防や生きがい作りの活動を行う、高齢者や障がい者の居場所（サロン）に活動費を支給しました。令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類に引き下げられ各サロンも徐々に活動を再開されてきた。依頼があったサロンでは、出向いての防災講話等を実施しました。

☆ふれあいいきいきサロン活動状況(会食会を含む) (R7.3.31 現在)

地区名	活動地区数 (うち会食会活動地区数)	会員数 (実人数)
鹿 島	5 8 (1 4)	1, 0 6 1
能古見	1 3 (4)	2 4 6
古 枝	7 (2)	1 5 9
浜	1 7 (7)	2 8 3
北鹿島	6 (3)	6 2
七 浦	9 (2)	1 2 4
その他	5 (0)	7 7
合 計	1 1 5 (3 2)	2, 0 1 2

◎ふれあいいきいきサロンの効果

生きがいづくり ⇒自分の居場所があり、サロン活動のなかで自分の役割を持つことによって、充実感が得られます。

仲間づくり ⇒地域の仲間が集うサロンでは、悩みを共有したり、相談し合えたりし、そこが仲間づくりの拠点にもなります。閉じこもり防止・介護予防等など。



職員による防災講話



手作り料理に会話も弾む

(2) 高齢者食生活改善事業（会食会）

地区の公民館などに定期的に集まり、地区の協力者や高齢者が一緒に調理を行い、会食（配食）をして、食生活の改善に努めた地区に助成を行いました。R5年5月に新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類に引き下げられ徐々に実施される会食会が増え出しましたが、参加者の減少などで活動を中止するサロンもあり、活動実施数も少なくなりました。

☆会食会活動状況（※地区別数はサロン参照）（R7.3.31 現在）

年度	活動実施数(延べ)	参加人数(延べ)
令和6年度	148	2,370
令和5年度	164	2,482

(3) 愛の一声ネットワーク実践区の設置推進（鹿島市からの委託事業）

一人暮らしの高齢者等に対して、隣り近所の方が、日常的な見守りや声かけによる安否確認等の見守り活動を実施する部落（行政区）に活動費を助成しました。

☆愛の一声ネットワーク活動地区別設置状況（R7.3.31 現在）

地区名	活動地区数	ネットワーク数	協力員数(延べ)
鹿島	10	40	114
能古見	2	4	12
古枝	1	5	15
浜	4	7	19
北鹿島	1	1	3
七浦	7	40	121
合計	25	97	284

(4) 老人福祉センター活用事業

市民交流プラザ「かたらい」の集会室を利用し、隔週水曜に「趣味づくり健康づくり教室（日本舞踊教室）」を開催しました。32期生18人（令和5年6月～令和7年5月）

3. 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成

(1) 広報誌「社協だより」の発行

年2回（7、12月）、全世帯（区長会の協力）、関係機関、団体に社協と老人クラブ合同の情報誌を配布しました。

(2) ホームページの運営

社協のホームページで、行事開催の案内や報告など様々な取り組みについて、広く周知するために今後は、内容を充実させ、更に改善を図ります。



鹿島市社協公式サイト

(3) 福祉団体等への助成事業

「赤い羽根共同募金」の配分金を活用し、675,000円を福祉団体等へ助成しました。

事業区分	助成団体	助成金額（円）
老人福祉事業	①鹿島市老人クラブ連合会	70,000
児童福祉事業	②鹿島市子ども会連絡協議会	40,000
	③鹿島市スポーツ少年団	20,000
障がい児、障がい者福祉事業	④地域活動支援センターひまわり	20,000
	⑤鹿島市手をつなぐ育成会	25,000
	⑥古枝身障者協会	40,000
民生児童活動事業	⑦6地区民生児童委員連絡協議会	360,000

更生保護事業	⑧鹿島保護区保護司会	10,000
ボラ活動育成事業	⑨鹿島手話サークル	60,000
	⑩鹿島防犯・安全パトロール	30,000
合 計 (10団体)		675,000

(4) 地域に対しての福祉活動助成事業

「地域福祉たすけあい募金」を活用し、1,538,000円を15行政区(部落)及び2団体に対し助成し、地域のコミュニティ活動、地域づくりを支援しました。

- ・補助率は、事業費の80%が上限、助成金額は、上限10万円まで
- ・原則として、助成を受けられるのは「4年」に一度(3年空ける)としています。

○助成対象事業

- ・公民館や地域の集いの場への施設整備、備品整備
- ・伝承芸能振興のための備品、用具の整備
- ・防犯灯の設置や更新(LED灯)など、地域の安全・安心確保への取組み
- ・その他、地域コミュニティの充実、地域のまちづくりに資すると認められる事業

○助成事業の状況(令和6年度)

申請者	事業内容	助成額
①東町区	公民館の掲示板設置	72,000円
②横田区	公民館の備品整備(会議用和座敷椅子)	63,000円
③行成区	公民館の備品整備(会議用椅子)	100,000円
④小舟津区	公民館の掲示板設置	100,000円
⑤大王袋区	公民館の備品整備(エアコン)	100,000円
⑥世間区	公民館の備品整備(会議用座椅子)	100,000円
⑦中浅浦区	公民館の備品整備(複合機)	100,000円
⑧西三河内区	伝承芸能継承のための備品整備(鉦浮立高張提灯)	100,000円
⑨大殿分区	伝承芸能継承のための備品整備(太鼓櫓の新設)	77,000円
⑩下古枝区	公民館の備品整備(会議用テーブル、チェア)	100,000円
⑪平仁田開拓区	公民館の照明整備(LED灯への取替)	92,000円
⑫三部区	公民館の備品整備(会議用座椅子)	84,000円
⑬常広区	ちびっこ広場のフェンス整備	100,000円
⑭嘉瀬の浦区	公民館の備品整備(エアコン)	100,000円
⑮能古見地区	三嶽神社例大祭用提灯整備	150,000円
⑯かしまにこに こクラブ(大手区)	地域食堂の運営	50,000円
⑰ひまわり食堂 (湯の峰区)	こども食堂の運営	50,000円
合 計 (17団体)		1,538,000円

4. 社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

(1) 福祉用具貸付事業

高齢者や障がい者など、在宅介護の負担軽減のため福祉用具の貸出を行いました。

☆福祉用具の保有と利用状況

(R7.3.31 現在)

福祉介護器具		保有数	貸出数	在庫数
車イス	自走用、介助用	21	9	12
歩行器・杖	歩行器（交互・車輪付き）、押し車、一本杖、四点杖、シルバーカー	13	4	9
合計		34	13	21

(2) おもいやり推進事業（福祉用具等リサイクル斡旋事業）

家庭で役目を終えて不要となった福祉用具などを「譲りたい人」と福祉用具などが「必要な人」をコーディネートし、福祉用具などのリサイクルを進めるとともに、福祉用具の普及と在宅介護の軽減を図りました。

40件（押し車、炊飯器、洗濯機、チャイルドシート等）のコーディネートが成立。

(3) あんしんキット配布事業

独居高齢者等が、緊急連絡先などの情報を専用容器に入れ、冷蔵庫（設置場所の特定）に保管してもらう事で、緊急時の救急活動（救急車出動時等）などに活用されています。

令和6年度には民生児童委員に設置者の転居や施設入所などの調査協力をいただき、設置世帯および配布数の整理を行いました。

☆あんしんキット地区別配布数

(R7.3.31 現在)

地区名	令和6年度 配布数	令和5年度 配布数
鹿島	268	527
能古見	70	127
古枝	38	55
浜	44	89
北鹿島	23	60
七浦	58	114
合計	501	972



安心キット 専用容器

(4) 日本郵便株式会社との「フードバンク事業等に関する協定」締結

令和4年2月22日に鹿島市内の郵便局（7局）と、フードバンク事業等について、連携して事業を推進するための協定を締結しました。各郵便局に、「物品提供受入ボックス」を設置し、家庭から提供できる食料品や、卒業して着なくなった制服、バザー用品等を市民から提供してもらい、生活困窮者の支援や、バザー用品販売による地域福祉活動に活用しました。

(単位：件)

郵便局名	フードバンク	制服・学用品	バザー用品	合計
鹿島	0	0	19	19
泉通り	20	13	216	249
浜	8	0	0	8
乙丸	0	0	3	3
七浦	8	8	23	39
能古見	8	8	13	29
祐徳神社前	12	0	19	31
合計	56	29	293	378

(R7.3.31 現在)



市民からの寄付（泉通り郵便局）



各郵便局に設置しているボックス

5. 保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡

(1) 民生委員児童委員との連携

毎月の民生・児童委員会（会長会、6地区毎の例会）へ出席し、社協事業の情報提供や意見交換、協力要請等を行いました。

鹿島市民生児童委員連絡協議会（地区会長会）運営事業の事務局（会計）を担当し「民生委員互助共励事業」の窓口として、見舞金等の必要な手続きを行いました。

(2) 保健・医療・福祉との連携

地域包括ケアネットワーク会議への出席（年3回）や、鹿島市要保護者等対策地域協議会実務者会議への出席（隔月）等を通して、市行政や地域包括支援センターとの連携を図りました。

(3) 県社協及び県内社協と連携

県社協主催の研修会等への出席や、県社協からの個別訪問懇談等を通して連携を図りました。佐賀県都市社協連絡協議会（県内10市社協）及び杵藤地区社協連絡会（3市4町）において、各市町社協との連絡調整や情報交換、意見交換を行い、連携強化に努めました。



6. 共同募金事業の協力の講師派遣

県、市町社協との災害ボランティア設置訓練

(1) 赤い羽根共同募金運動の推進 【募金総額 5,636,937円】

区長会の協力を得て推進する戸別募金をはじめ、法人募金、街頭募金、資材募金、企業協賛募金、学校募金等の各種募金活動を10～12月の期間で推進しました。

☆一般戸別募金の実績（1世帯あたり目標額350円）

地区	目標世帯数	目標額	実績世帯数	実績額
	戸	円	戸	円
鹿島	5,000	1,750,000	4687.3	1,640,550
能古見	1,014	354,900	894.5	313,075
古枝	863	302,050	853.0	298,550
浜	940	329,000	829.1	290,200
北鹿島	1,172	410,200	903.1	316,080
七浦	840	294,000	715.0	250,250
過年度分				1,430
合計	9,829	3,440,150	8,882.0	3,110,135

(前年度実績 3,117,855円)

☆戸別募金以外の実績

募金種別	件数	実績額	備考
	件	円	
学校募金	13	212,746	小・中・高校及び保育園・幼稚園
法人募金	160	749,456	市内各事業所等
資材募金		1,256,150	そば・のり等の県産品、バッジ・ボールペン等
街頭募金	6	213,144	市内6店舗
企業設置募金箱		67,577	市内事業所等
篤志募金	5	27,729	個人
イベント募金等			
計		2,526,802	

(前年度実績 2,459,904円)



市内商業施設前での街頭募金活動



共同募金運動出発式

(写真中央左：鹿島市ボラ連会長 家永氏)

(2) 地域福祉たすけあい募金運動の推進 【募金総額 2,302,845円】



区長会の協力を得て推進する一般家庭からの「戸別募金」や、個人・団体からの「一般篤志募金」を、11～12月の期間で推進しました。

☆戸別募金実績（1世帯当たり目標額250円）

地区名	目標世帯数	目標額	実績世帯数	実績額
	戸	円	戸	円
鹿島	5,000	1,250,000	4,748.2	1,187,050
能古見	1,014	253,500	894.5	223,625
古枝	863	215,750	853.0	213,250
浜	940	235,000	828.0	207,000
北鹿島	1,172	293,000	926.32	231,910
七浦	840	210,000	715.0	178,750
小計		2,457,250	8,976.02	2,241,585
預金利息、一般篤志募金等			8	61,260
合計				2,302,845

（前年度実績 2,274,033円）

7. 福祉サービス利用援助事業（安心サポート事業）

判断能力が不十分な認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者を対象に、福祉サービスの利用支援や日常的な「金銭管理支援」を行いました。

新規契約締結5件（内訳：認知症高齢者2件・知的障がい者0件、精神障がい者）、解約件数4件の実績を収めました。市民や関係機関からの制度利用に関する相談や、サービス利用者への相談援助を行いました。

<相談件数> (R7.3.31現在) (単位：件)

対象者 事項	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	計
相談援助件数	93件	114件	144件	1件	352件

<利用者数> (R7.3.31現在) (単位：件)

対象者 事項	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	計
利用人数	5人	5人	8人	0人	18人

<利用者宅等への訪問支援回数（専門員2人、生活支援員1人による）> (単位：件)

対象者 事項	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
支援援助件数	76件	81件	101件	258件

(R6.4.1～R7.3.31)

8. 福祉資金貸付事業

(1) たすけあい貸付資金貸付事業（鹿島市社協扱い分）

- ・低所得世帯等に対し、10万円を上限として貸付を行い、生活の安定を図りました。
- ・相談受付件数49件、新規貸付0件、完済1件の実績となりました。
- ・貸付に至らなかったケースにおいても、家計や就労に関する支援を行いました。
- ・現貸付件数は4件で、返済の滞納者に対しては、随時督促を行いました。

(2) 緊急ライフサポート事業 絆資金貸付事業 (鹿島市社協扱い分)

- ・早急に金銭的支援が必要と判断した、緊急性の高い世帯等に対し、1万円を上限として貸付を行いました。
- ・令和6年度は延べ15件(実人数12人)合計6万5千円の貸付を行い、完済6件の実績を収めました。現貸付件数は14件です。
- ・貸付に至らなかったケースにおいても、家計や就労に関する支援を行いました。



(3) 生活福祉資金状況 (県社協扱い分)

- ・低所得世帯に対し各々の状況に応じた資金の貸付を行い、福祉や社会参加の促進を図りました。
- ・コロナ特例貸付に関しては、訪問や電話等のプッシュ型支援を行い、相談件数は203件でした。
- ・他の相談受付件数26件、新規貸付1件、完済4件の実績でした。
- ・返済の滞納者の状況把握について、県社協と連携を図りました。
- ・鹿島市社協が受け付けた貸付相談者の実数は106人でした。

☆相談支援件数 (R6.4.1~R7.3.31)

利用資金名	相談件数
総合支援資金	0
福祉資金	6
緊急小口資金	1
教育支援資金	19
臨時特例つなぎ資金	0
不動産担保型生活資金	0
その他	0
コロナ特例貸付	203
合計	229

※新型コロナ特例貸付

新型コロナウイルス感染症の発生による「休業」や「失業」等により、一時的又は継続的に収入が減少した世帯を対象に貸付を実施しました。(受付期間：R2.3.25~R4.9.30)

令和5年1月からは特例貸付の償還が開始され、償還困難な方に対しては「償還免除」「償還猶予」の相談や、手続き支援をおこないました。

「特例貸付フォローアップ支援事業」を通じ、返済が滞っている方や免除が決定した方も含め、個々の状況に合わせて生活再建に向けた支援を継続します。

☆取扱状況 貸付実人員245人

(単位：件)

(単位：円)

緊急小口資金	203件	33,100,000円
--------	------	-------------

総合支援資金（初回）	155 件	85,950,000 円
〃（延長）	38 件	20,400,000 円
〃（再貸付）	40 件	22,350,000 円
貸付件数（計）	436 件(245 人)	161,600,000 円

- ・緊急小口資金（休業された人向け）→ 10万円～20万円以内
- ・総合支援資金（失業された人向け）→ 15万円～20万円以内×3か月以内

☆償還状況（R7.3.31 現在）

	償還完了	償還免除	償還猶予	返済中 (滞納なし)	返済中 (一部滞納)	全額滞納	合計
緊急小口	26 件	93 件	18 件	3 件	41 件	25 件	206 件
総合（初回）	1 件	89 件	13 件	12 件	26 件	15 件	156 件
〃（延長）	0 件	14 件	5 件	6 件	5 件	10 件	40 件
〃（再貸付）	0 件	17 件	2 件	5 件	1 件	15 件	40 件
合計	27 件	213 件	38 件	26 件	73 件	65 件	442 件
割合（%）	6.1%	48.2%	8.6%	5.9%	16.5%	14.7%	100%

（4）福祉おもいやり特別資金貸付事業（鹿島市保険健康課長寿社会係扱い）

虐待など特別な理由がある高齢者に対し、50万円を限度として貸付を行い、福祉の増進に資する制度です。令和6年度は、相談受付件数0件、現貸付件数は0件でした。

地域共生社会の実現に向けて



9. 鹿島市ボランティア活動センター運営

(1) ボランティア活動に関する相談窓口の整備

ボランティアについての問い合わせや相談に応じ、「ボランティア人財バンク」や、「市ボランティア連絡協議会」への登録・加入勧奨を行いました。(新たに1団体が新規加入)

(R7.3.31 現在)

区 分	登録者(団体)数	昨年度
ボランティア人財バンク	60人 ※1	70人
市ボランティア連絡協議会	48団体	47団体

※1 令和7年度以降 引き続き活動ができるか登録者に確認を行い、継続できる方のみ登録



(2) ボランティア活動の支援

ボランティア団体の活動支援として鹿島市ボランティア連絡協議会会員同士の交流と各市町の活動内容を学ぶために各団体の活動発表の場を設けたり、各市町ボランティアの視察受け入れ、各研修会にも参加しました。また、「福祉教育」の支援として、北鹿島小学校で鹿島市レクリエーション協会と協働した授業を実施しました。

個人ボランティアの登録制度(人財バンク)では、「社協だより」やボランティア養成講座を開催するなどしてボランティアの募集を行い、15人の方に登録いただき、そのうち2人の方には傾聴ボランティアとして活動していただきました。今後は様々なニーズに対応した「ボランティア養成講座」を開催していきます。

SAGA2024国スポ・全障スポにおいて、デモンストレーション競技「バグギー」では鹿島市レクリエーション協会の支援を行い、大会運営にあたりました。

高齢者等の災害弱者支援の一環として、頻発する大規模災害に備え、「災害ボランティア活動」を中心に、「災害発生時にすみやかに「災害ボランティアセンター」の運営ができるよう、体制づくりに努める必要があります。令和6年度は、1月に発生した能登半島地震と9月の豪雨災害において被災地の石川県珠洲市に職員2人を派遣し、災害ボランティアセンター運営支援にあたりました。



SAGA2024バグギー競技 運営支援



災害ボランティアセンター運営支援(石川県珠洲市)



ボランティア連絡協議会 団体交流会



小学校での福祉教育(パラスポーツ・車イス体験)

令和6年度 鹿島市ボランティア連絡協議会 登録団体

令和7年(2025年)3月現在

No.	団体・グループ名	加入	会員数	備考
1	鹿島市婦人ボランティア五五会	1	15	会長:武藤恭子 令和元年「緑綬褒章」受章
2	鹿島手話サークル	1	21	代表:古川佐知子
3	健康づくり趣味づくり 日本舞踊教室	1	20	講師:武藤恭子(藤間松娘) ※社協主催
4	ボランティアグループ ひがたが丘	1	7	代表:松本ユミ子
5	宝円寺佛教婦人会	1	33	代表:中島節子
6	風のガーデンの会	1	21	代表:久原正之
7	サークル・エコー通信	1	14	代表:宮津彰子鹿島市報の録音ボランティア
8	若柳流 東会	1	8	代表:東江見子
9	鹿島市子ども会連絡協議会	1	24	代表:馬場照夫
10	鹿島ローターアクトクラブ	1	5	代表:馬場秀一朗
11	一般社団法人 鹿島青年会議所	1	24	代表:中尾将之
12	藤間流 智賀徳会	1	20	代表:戸上節子
13	かしま防災サポーターズクラブ	1	177	代表:藤家耕子
14	鹿島ママちゃんズ	1	16	代表:宮田真美 子育て世代グループ/お譲り会等開催
15	鹿島小学校防犯ボランティア	1	39	代表:北島勝郎
16	ボランティア DIWA(ディーワ)	1	5	代表 風間扶美子
17	鹿島市老人クラブ連合会	1	60	会長:馬場喜彦 ※老連役員で登録
18	社会福祉法人 鹿島市社会福祉協議会	1	30	役員(理事、評議員、事務局)
19	鹿島市食生活改善推進協議会	1	101	会長:石田雅子
20	鹿島ITクリエイト	1	2	代表:岩永信二/DX事業
21	基聖「寛蓮」顕彰会	1	5	代表:藤永勝之/囲碁を活かしたまちづくり
22	かしまこどもフェス実行委員会	1	18	代表:森田駿
23	鹿島市レクリエーション協会	1	92	会長:山口清美
24	特定非営利活動法人 NPOこころ(もりの家)	1	5	代表理事:中村雄一郎
25	福祉サービスこころ(株)	1	5	社長:木下高子
26	鹿島水の会	1	20	代表:西村宰
27	鹿島市民生児童委員協議会(6地区)	1	96	民生委員・児童委員、主任児童委員
28	鹿島市民生児童委員連絡協議会(会長会)	1	6	民生児童委員(6地区会長)
29	鹿島DX(デジタル・トランスフォーメーション)研究会	1	43	会長 白川幸一郎
30	株式会社ダイナム 鹿島店	1	15	企業ボランティア(窓口:藤原成樹)
31	明倫小学校子ども見守り隊	1	84	代表:森田実
32	Brew SAGA(市民サッカークラブ)	1	25	代表:宮崎亮(たすく) ※窓口(武部壮馬)
33	一般社団法人 鹿島デジタル社会推進協会	1	12	代表理事 岩永信二
34	ゆめさが大学鹿島校ボランティアグループ	1	15	ゆめさが鹿島校のメンバー
35	一般社団法人 スマイルキッズ佐賀西部支部	1	3	代表:富永寿子 子育て支援グループ
36	鹿島防犯・安全パトロール	1	15	代表:森崎俊博
37	104 FOCUS GYM	1	1	代表:家永俊弘(ジム経営)
38	ボランティアひまわり	1	5	代表:今田羊一「ひまわり食堂」 子ども食堂
39	公益財団法人 佐賀未来創造基金	1	5	代表理事:山田健一郎
40	かしま「ほとめき会」	1	40	代表:松尾征子(事務局)
41	本城・中木庭 寿老人クラブ	1	39	会長:坂口政昭 ※老連未加入
42	かしま にこにこクラブ(大手地域食堂)	1	4	代表:小笠原恭子/副代表:淵上貴志
43	社会福祉法人みらいのそら多機能型支援センターそら	1	19	センター長 宮崎恵子/社協就労事業連携
44	司法書士法人アドヴァンス鹿島事務所	1	6	所長:堀政海(司法書士、行政書士)
45	鹿島商工会議所女性会	1	30	会長:吉傘田暁美/吉傘田建材(株)
46	鹿島市連合青年団	1	6	団長:竹下宏紀 ※事務局/田澤記念館
47	地域応援くらぶ「アクトフレンズ」	1	10	尾崎正見/地域活性化イベント開催
48	チームIBF	1	10	代表:太田尾隆喜/防災ボランティア
49				
50				
合 計(団体登録)		48	1,276	延べ人数(個人で複数の団体への加入あり)

○個人ボランティア

個人会員(人財バンク登録者)

60人

10. 生活困窮者自立相談支援事業（鹿島市からの委託事業）

「生活お困りごと相談」として、対象者を限定せず生活全般の相談窓口として実施し、相談受付件数延べ3,357件、相談者数延べ1,445人（相談実人員382人）の実績を収めました。

令和2年3月末から始まった「生活福祉資金コロナ特例貸付」が、令和4年9月で終了し、令和5年1月から償還開始となったため、特例貸付利用者からの問い合わせや、返済困難者からの相談が多く寄せられました。

新規相談者の相談内容で多かったのは、「お金」「生活」に関する相談で、新型コロナウイルスの影響による家計悪化が長引いていたり、物価高騰のあおりを受け生活に困窮されたりしている方からの相談が増えています。また、ひとり親世帯や多子世帯、非正規雇用等で、慢性的な生活困窮に陥っている世帯からの相談も恒常的にあります。相談者の性別は女性がやや多い傾向。年齢層は幅広く、相談はどの世代からも寄せられており、内容も多岐に渡っています。

相談経路は本人や家族、行政機関からの相談が多く、福祉課や地域包括支援センターの相談員と連携して支援にあたる事が多々ありました。関係機関と連絡調整を図り、他機関が支援に行き詰ったケースの受け皿としての役割も果たしました。

☆相談受付件数（延べ件数）

相談方法	件数
電話	1,336
メール	172
来所	1,214
訪問	635
合計件数	3,357

※社協の相談窓口は、「生活お困りごと相談」として、対象者を限定せず、「生活全般の相談窓口」として開設しています。

☆新規相談者

○性別・年代別相談受付状況

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	不明	合計
男	1	4	5	6	14	6	16	9	61
女	3	8	7	5	5	4	19	16	67
合計	4	12	12	11	19	10	35	25	128

○相談経路別件数

	実人数
本人	50
家族	15
行政機関	35
地域	7
関係機関	17
その他	4
合計	128

○相談内容別件数

	仕事	生活	健康	人間関係	家族	お金	住まい	その他	合計
本人	6	8	7	2	9	21	14	15	82
家族	1	4	6	1	4	5	3	3	27
行政機関	8	3	9	2	16	21	8	7	74
地域	1	0	3	0	4	1	0	2	11
関係機関	1	2	3	1	3	10	4	6	30
その他	0	0	1	0	0	0	0	3	4
合計	17	17	29	6	36	58	29	36	228

(1) フードバンク事業（食料支援）

生活困窮世帯（登録世帯 100 世帯 270 人）に年 569 回（延べ）の食料支援を行い、困窮世帯の生活安定と食品の廃棄（食品ロス）解消をしました。

食料については、広く市民や団体から食料品等付を受け付け、「鹿島ロータリークラブ様」、「NPO 法人 フードバンクさが様」、「セブンイレブン・ジャパン様」等の他、赤い羽根共同募金の緊急支援助成等も活用し、米、缶詰、インスタント食品、レトルト食品、お菓子等を随時提供していただき、事業の充実に資することができました。



間
指
の寄

(2) 制服・学用品バンク事業

制服等の学用品購入が困難な生活困窮世帯に対し、地域住民から寄付された制服や学用品等を支給し、生活困窮世帯の経済面での負担軽減や、リユースによる循環型社会の推進を図りました。
(R6 実績／12 件配布)

(3) ふれあい地域食堂

「鹿島市生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォーム整備事業」の助成を受け、鹿島市食生活改善推進協議会の支援により、フードバンク事業の登録者世帯（生活困窮者）の希望者（延べ 165 世帯 549 人）に対し、12 月～3 月中の毎月 1 回（全 4 回）、手作りのお弁当を配布しました。



1 1. 生活困窮者就労準備支援事業（鹿島市からの委託事業）

生活困窮者自立支援相談者の中で、就労に向けての準備が必要な方や、就労継続・定着のための支援が必要な方など 9 人（20 代男性 5 人、30 代男性 1 人、30 代女性 1 人、40 代男性 1 人、50 代男性 1 人）の方に対し、延べ 232 回の支援を行いました。

具体的には、定期的な面談や訪問、メール（ライン）のやり取りを行い、本人の希望を聞きながら、状態に合わせて自立チャレンジサポート事業や中間的就労事業所の利用、一般就労先との調整等をおこない、本人の就労意欲の向上と、仕事の定着支援に努めました。

その結果、5 人が B 型作業所、4 人が自立チャレンジサポート事業利用につながりました。事業所に繋がった方に対しても定着支援を行い、仕事にも慣れて社会復帰を果たされています。

(1) 自立チャレンジサポート事業

生活困窮者就労準備支援事業への申込者で、就労体験を希望する方 4 人（20 代男性 3 人、30 代男性 1 人）に対し、週 1～2 回 2 時間程度、ボランティア活動や就労体験など、自立のために必要な活動に取り組むことに対して交通費程度の手当てを支給し、生活困窮者や、就労に不安を抱える相談者の就労意欲向上を図りました。

具体的には、米（フードバンク用）仕分け作業、書類整理、福祉作業所（アメリカパン等）での作業体験等を行いました。今後は協力企業、事業所の発掘にも努めていきます。

1 2. 生活困窮者家計改善支援事業（鹿島市からの委託事業）

生活困窮者自立支援相談者の中で、家計改善支援が必要な方に対し、延べ 248 回の支援を行いました。

具体的には、年金日や給料日に合わせて、定期的な面談や訪問、メール（ライン）のやり取りにて、生活状況や家計の聞き取りを行い、ライフラインや税金の滞納や負債が増えていないか確認し、生活費の仕分けや、支払いの優先順位等のアドバイスをおこないました。また、必要時には、市税務課や金融機関等への同行、奨学金などの手続き支援を行い、世帯の家計改善に向けた支援を行いました。

その結果、それぞれの世帯で生活全般を含めて見直しを行うことができ、収支の改善や家計の再生につながりました。

○生活困窮者家計支援事業利用者状況

	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	1	1	2	1	0	5
女性	1	3	2	1	2	9
合計	2	4	4	2	2	14

（1）未来安心サポート事業

令和 5 年 10 月～家計改善支援と通帳等の預かりを希望される利用者 12 人に対し、延べ 212 回の支援を行いました。

通帳等を預かることで、収支の把握や家計課題の改善の手助けの実施。これらの支援により、利用者の生活が安定し、自立を目指す意欲の向上につながるケースが多く見られました。

○未来安心サポート事業利用者状況

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	0	1	2	1	1	0	0	5
女性	1	1	1	1	0	1	2	7
合計	1	2	3	2	1	1	2	12



1 3. 生活困窮者支援機能強化事業（鹿島市からの委託事業）

「コロナ禍」を契機に潜在化した生活困窮者など「支援を必要とする世帯」へ市内の各種団体（計12団体）と連携して支援を行った。

○事業詳細

（単位：円）

助成団体名 （代表者名）		事業内容	助成額	助成対象経費内訳 （総事業費）
1	鹿島校区民生児童委員協議会 （樋口和幸）	民生児童委員と主任児童委員（16人）が長引く新型コロナウイルスや物価高騰の影響により生活状況が厳しくなり不安を感じている世帯を訪問し、ドライブーズの食料品2,300人分と学用品100人分を配布し支援を行った。	500,000	・配布支援品 496,000 ・チラシ印刷 3,500 ・封筒等 2,150 （計 501,650）
2	明倫校区民生児童委員協議会 （藤家耕子）	民生児童委員と主任児童委員（15人）が長引く新型コロナウイルスや物価高騰の影響により生活状況が厳しくなり不安を感じている世帯を訪問し、ドライブーズの食料品2,300人分と学用品100人分を配布し支援を行った。	500,000	・配布支援品 496,000 ・チラシ印刷 3,500 ・ビニール袋等 2,451 （計 501,951）
3	能古見地区民生児童委員協議会 （植松直樹）	民生児童委員（17人）が地区内の70歳以上の一人暮らし世帯（109世帯）、父子・母子家庭世帯（10世帯）、80歳夫婦のみ世帯（23世帯）、民生児童委員が必要と判断した世帯（24世帯）計166世帯へ生活用品を配布し支援を行った。	300,000	・配布支援品 300,439 （計 300,439）
4	古枝地区民生児童委員協議会 （山口政俊）	民生児童委員（9人）が地区内の高齢者や障がい者世帯（84世帯）や多子世帯へ食料品や日用品等を配布し支援を行った。	300,000	・配布支援品 301,367 （計 301,367）
5	浜地区民生児童委員協議会 （小森厚子）	民生児童委員（9人）が地区内の75歳以上の高齢世帯、母子世帯、多子世帯へ日用等を配布し支援を行った。	300,000	・配布支援品 301,124 （計 301,124）
6	北鹿島地区民生児童委員協議会 （北村久代）	民生児童委員（9人）が地区内の母子世帯、父子世帯、多子世帯、高齢者世帯、障害者世帯	300,000	・配布支援品 313,200 （計 313,200）

		の115世帯へ米(2kg)を配布し支援を行った。		
7	七浦地区民生児童委員協議会 (野中由美子)	民生児童委員(11人)が地区内の買物困難者、一人親世帯を対象に3回に分けて日用品や弁当を配布し支援を行った。1回目:日用品(109世帯)、2回目:弁当(125個)、3回目:日用品とインスタント食品(119世帯)	300,000	<ul style="list-style-type: none"> ・配布支援品 293,786 ・交通費 6,500 (計 300,286)
8	多機能型支援センター「そら」 (宮崎恵子)	障がい者と地域住民と一緒に食事をする事で障害についての理解や地域の居場所づくりを目的とした食堂を5回実施した。また、就労型支援B型の利用者が接客や厨房での作業をすることで地域住民との交流を図った。 ・1回目:(108人)/2回目:(54人)/3回目(80人)/4回目(102人)/5回目(136人)のべ480人	200,000	<ul style="list-style-type: none"> ・食材費 99,331 ・消耗品費 91,169 ・印刷製本費 7,500 ・水道光熱費 20,000 ・その他 30,000 (計 248,000)
9	鹿島市食生活改善推進協議会 (石田雅子)	かたらいキッチンスタジオにて全5回「鹿島ふれあい地域食堂」を開催し社協と連携して生活に困窮されている方々へ食の支援を行った。	390,000	<ul style="list-style-type: none"> ・食材費 327,478 ・各種消耗品 34,082 ・チラシ印刷 11,000 ・備品購入費 19,135 (計 391,695)
10	手作りバイキングたすき (田雑千恵美)	市役所敷地内で子ども食堂を開催した。社協のフードバンク登録者にも周知・案内をし、無料で手作り料理を提供するなどして支援を行った。また、多くの近隣住民の利用もあり地域コミュニティの拠点としても活用できた。	200,000	<ul style="list-style-type: none"> ・食材費 161,722 ・消耗品費 3,069 ・備品購入費 35,612 (計 200,403)
11	特定非営利活動法人NPOころもりの家 (中村雄一郎)	北鹿島地区内の母子、父子家庭(幼児～小学生まで)を対象に社協も連携してお菓子や米、ジュース等をセットにしクリスマスプレゼントとして22世帯(38人)に配布し支援を行った。	150,000	<ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費 129,312 ・謝金、交通費 7,579 ・備品購入費 15,846 (計 152,737)

12	一般社団法人 スマイルキッズ (鹿島:富永寿子)	ひとり親世帯やプレひとり親世帯を対象に、進級・進学支援として体操服やバッグ等を配布。対象世帯への周知等広報は福祉課、社協と連携して周知を図った。また、中学校へ新入学する児童を対象に制服代を助成し支援を行った。	460,000	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類購入費 451,527 ・消耗品費 880 ・印刷製本費 7,854 (計 460,261)
	合 計	助成金交付団体(計12団体)	3,900,000	

<活動の様子>



1～7. 各地区民生児童委員協議会



9. 食生活改善推進協議会



11. NPOこころもりの家



8. 多機能型支援センター「そら」



10. 手作りバイキングたすき



12. 一般社団法人スマイルキッズ

1 4. 生活支援体制整備事業（鹿島市からの委託事業）

○事業の趣旨

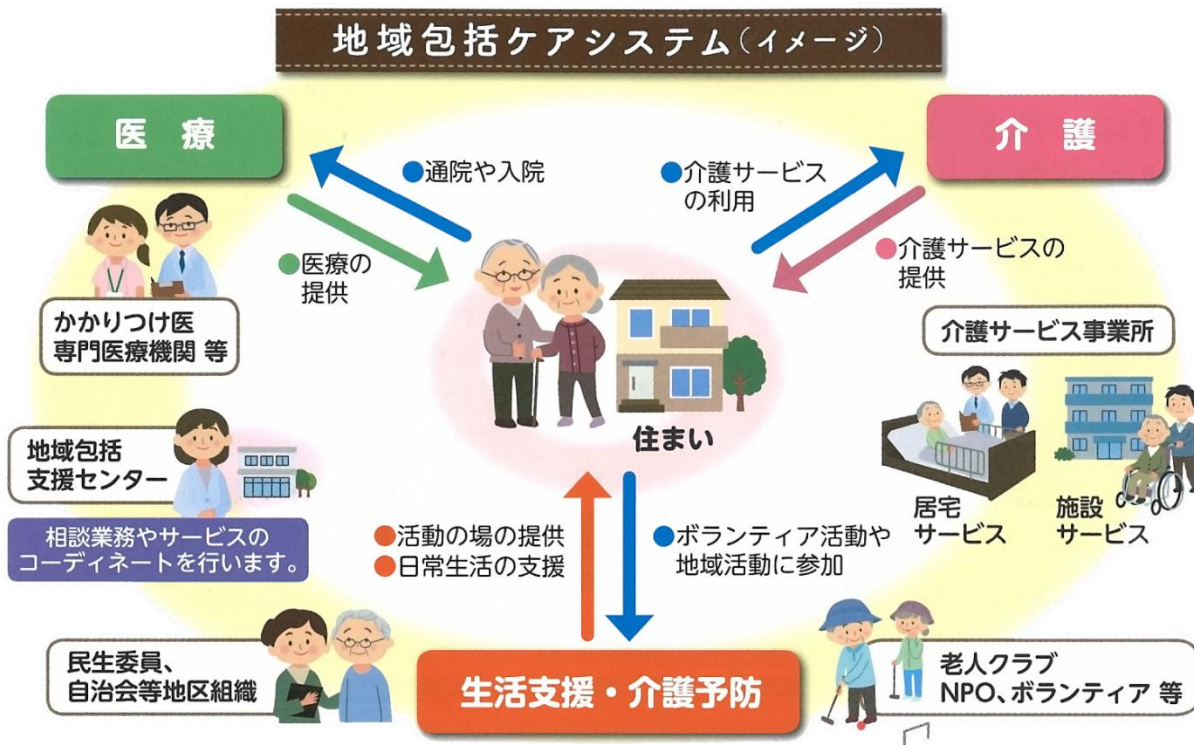
地域主体、住民主体の「福祉のまちづくり」をめざして（行政等の公的制度だけでなく）



- ・既存の住民団体やグループの「生活支援」や「介護予防サービス」の状況を把握する
- ・高齢者等の要望や生活上の「お困りごと」、「地域課題」を把握する
- ・介護予防や生活支援の「担い手」となるボランティアや住民組織を育成する
- ・住民団体への働きかけや、新たな「生活支援サービス」を創設する（地域資源の開発）



- ・新しい生活圏「地域包括ケアシステム」の構築をめざす（下記：イメージ図）



(1) 第1層の活動（鹿島市全体を視野に入れた活動）

- ・平成28年10月1日に鹿島市より事業受託し平成29年10月27日に第1層協議体会議を開催し、関係機関、団体等との連携を図り、介護予防・生活支援の担い手の育成、サービスや地域資源の開発等を推進しました。
- ・令和5年5月に新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが5類に引き下げられたので、会議等も通常開催しました。

(実施状況)

No.	事業区分	内 容	件数
1	第1層、第2層協議体の開催(会議・研修等)	関係団体や地域住民で組織された「第1層協議体」のメンバー(委員)で奇数月に定例会を行い、高齢者の「生活支援」や「介護予防サービス」の体制整備に取り組みました。	通年

2	ボランティア養成講座の開催	地域課題を住民が主体となって解決するために、傾聴や認知症ボランティアの養成講座を開催しました。	2
3	住民主体による高齢者の外出支援へ向けた取組	買物や通院など個別での移動支援に対応するために、地域ボランティアの自家用車による移送サービスを創出するために検証を行いました。(古枝地区より利用者をマッチング)	1
4	各種研修会参加 (スキルアップと情報収集)	職員(生活支援コーディネーター)のスキルアップや、地域のまちづくりの現状や課題を把握するため、各種の研修会、講座、意見交換会等に積極的に参加しました。	通年
5	市民団体、ボランティア組織との連携	高齢者の社会参加、地域貢献、健康寿命延伸、相互の見守り等を通じて、支えられる側から支える側へ回り、地域づくりの一端を担うことをめざす鹿島市老連等、市民組織や関係機関との連携を強化しました。(ボランティア活動センター事業等)	随時
6	「地域福祉事業」の「拠点」づくり ・旧「吹上荘」施設 ・「もりの家」	令和元年に事業を終了した旧「吹上荘」関連施設を、「地域福祉」「生活支援体制整備」の「拠点(介護予防支援センター)」として活用しました。(令和2年:祐愛会と契約締結) 「地域共生ステーション・もりの家」の施設活用で、「シニアカフェ」、「なでしこサロン」などの会場として活用しました。	随時
7	高齢者実態調査 ・独居高齢者等の状況調査(4月1日:現在)	民生委員の協力を得て、鹿島市内の全行政区(84)について65歳以上(高齢者)の状況(在宅での独居等)の調査を行い、鹿島市や鹿島市議会へ提供しました。	1
8	災害発生など緊急事態への対応(平時の備え)	災害発生時での「災害ボランティア活動」など、災害弱者等への支援体制整備を平時から取り組みました。(研修、訓練への参加)	通年

(2) 第2層の活動(中学校区や各行政区を視野に入れた活動)

- ・平成30年4月1日に鹿島市より事業受託し、令和4年8月に「第2層協議体」として民生児童委員を中心に「西部地区」「東部地区」を開設
- ・個別訪問や地域へ出向くことで、ニーズの把握や地域資源の発掘を行いました。
- ・さまざまな会議に出席することで課題の抽出ができ、新たなサービスの開発に繋がりました。
- ・ボランティアの活動を支援し“住民主体の福祉のまちづくり”を目指しました。

(実施状況)

No.	関係先等	事業内容	件数
1	買物応援バス (七浦地区)	七浦地区の買物が困難な高齢者を対象に、買物応援バスを月2回運行した。	22
2	買物応援バス (浜地区)	浜地区の買物が困難な高齢者を対象に、買物応援バスを月2回運行した。	24

3	買物応援バス (古枝地区:下古枝区)	新たなエリア拡大として古枝地区下古枝区でも11月から買物が困難な高齢者を対象に、買い物応援バスを月2回運行開始した。	8
4	シニアカフェ	閉じこもりがちな高齢者(特に男性)が集う参加者主体の居場所。	37
5	なでしこサロン	視覚に障がいをお持ちの方たちが、自分たちしか分からない不安や悩みを語り合うことで、少しでも前向きに、楽しみを持って生活できるよう、集いの場の提供。	11
6	会議出席	(委員として出席) ・地域ケア個別会議(2か月に1回) ・地域包括ケアネットワーク会議(年3回) ・第1層協議体会議(奇数月) ・第2層協議体会議(偶数月) R4年8月発足 ・サービス担当者会議 ・佐賀県SC連絡会 ・鹿島市民生委員・児童委員連絡協議会 など	適時



第1層協議体会議



第2層協議体会議

◎買物応援バス

(実施状況:七浦地区)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	2	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	22
参加者数	24	14	23	24	21	21	24	12	24	13	20	16	236
協力者数	10	3	6	7	10	7	8	4	8	3	8	5	79

- ・毎月2回、第1金曜日・第3火曜日に実施。
- ・当日は、社協の福祉バスで、各地区の集合場所(公民館等)まで送迎。
- ・鹿島市内のスーパーなどの商業施設で、ボランティアスタッフに協力(見守り、商品さがし、レジ等)をいただきながら買物を行う。
- ・参加登録者20人(七浦地区)、ボランティア登録者12人(内民生員:2人)(R7.3.31現在)

(実施状況：浜地区)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
参加者数	15	19	19	16	20	15	18	20	18	18	18	16	212
協力者数	12	6	11	9	8	10	7	13	10	7	10	13	116

- ・令和5年11月に試験運行を実施し同年12月より本格運行開始。
- ・毎月2回、第2木曜日・第4金曜日に実施。
- ・当日は、社協の福祉バスで、各地区の集合場所（公民館等）まで送迎。
- ・鹿島市内のスーパーなどの商業施設で、ボランティアスタッフに協力（見守り、商品さがし、レジ等）をいただきながら買物を行う。
- ・参加登録者13人、ボランティア登録者9人（内民生委員：5人）（R7.3.31現在）

(実施状況：古枝地区 下古枝区)

区分	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	2	2	1	1	2	8
参加者数 (協力者含)	20	20	8	8	19	75

- ・新たなエリア拡大として令和6年11月に古枝地区下古枝区を対象に試験運行を実施し、**必要条件が①ニーズ（必要性、参加登録者）がある事。②当日の参加者のとりまとめをする担当者の確保（期日、時間の周知、参加人数の確認等）③当日支援していただく買物ボランティアの確保（商品探し、レジの支援）**の3つの条件が整ったので12月から本格的にスタート。
- ・古枝地区 下古枝区も月2回を基本として、利用者の話し合いにより運行日を設定。各地区の集合場所から乗降してもらい鹿島市内外の商業施設にて買物をしていただく。利用者の見守りや商品探しなどの支援は利用者同士の互助で対応。
- ・参加登録者14人（ボランティア登録者3人含む）



買物を楽しむ利用者（下古枝区）



利用者同士で協力しながらの買物（下古枝区）

◎「シニアカフェ」

(実施状況)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	4	3	4	3	3	3	3	3	4	3	3	1	37
参加者数	48	46	58	32	32	30	33	34	52	33	35	12	445

- ・対象者 閉じこもりがちな高齢者（特に男性が集う参加者主体の居場所）
- ・毎週月曜日 13時～16時（開始：令和2年11月2日より）
- ・麻雀、カラオケ、卓球、談話、運動など参加者自身が興味のあることに参加
- ・移動手段がない人に関しては、社協にて送迎サービス実施
- ・参加者総数：延べ445人（R7.3.31現在）



◎「なでしこサロン」（視力障がいをお持ちの方）

(実施状況)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	11
参加者数	7	7	6	5	6	6	6	7	6	6	7	0	69
協力者数	3	3	2	3	4	4	2	3	2	2	3	0	31

- ・対象者 視覚障がい者
- ・毎月第4水曜日 13時30分～16時30分
- ・利用者 7人（女性） 登録ボランティア10人（R7.3.31現在）



■今後の重点的な取組み（生活支援体制整備事業）

（1）ボランティア活動への協力お願い（スタッフの充実）

- ①買物応援バス ⇒エリア拡大を検討
- ②シニアカフェ（高齢者の集いの場）
- ③なでしこサロン（視覚障がい者の集いの場）
- ④人財バンク登録者（募集） ⇒主に個人ボランティア
- ⑤鹿島市ボランティア連絡協議会 会員募集（団体・企業）
- ⑥その他、ボランティア募集（老人クラブやサロン訪問、イベント等、随時）

（2）社協事業の充実について（※令和7年度の目標）生活支援体制整備事業

①買物応援バスのエリア拡大（試験運行）

- ・「買物応援バス」の「試験運行」を希望される地域での実施
- ・運行に必要な地元の協力等について協議し、条件が整えば「試験運行」を実施

②地域での「まちづくり懇談会」の開催

- ・行政区（部落）単位、グループ単位（サロン、老人クラブ等）規模を問わず、地域の生活課題や地域ニーズ（困りごと等）について懇談会の開催（随時）
- ・地元の区長会、民生児童委員、公民館、振興会等の関係団体と連携して開催

③「協議体会議」の開催

- ・「第1層協議体」「第2層協議体（西部地区）、（東部地区）」の会議の開催と協議体会議の活性化、有効活用（地域資源の発掘と開発など）

④様々なニーズに対応した「ボランティア養成講座」の開催

- ・地域課題や地域ニーズに対応できる、地域ボランティアの育成を図るためにボランティア養成講座を開催することによる地域の担い手なる人材の確保

⑤介護予防支援センター吹上荘の利活用

- ・地元の区長や民生委員との意見交換を実施するとともに祐愛会、地元区長などを加え、施設の「地域に開かれた」活用策を検討するプロジェクトチームを設置し活用開始

<令和6年度：開講ボランティア講座>



傾聴ボランティア養成講座（全3回）

令和6年9月4日（水）・11日（水）・27日（金）

『話し手の「好きなこと」を聞く』

『話のストーリー（内容）を肯定する』

『困り事、グチを聞く』

受講生26人



ボランティア養成講座

令和7年2月14日（金）

『生活支援体制整備事業のこれから』

『認知症との向き合い方』

受講生36人

15. 福祉バスの運行管理事業

福祉バスの運行で、鹿島市（行政、小中学校）や市内の福祉団体、ボランティアグループの研修活動等を支援しました。年間、計196件の利用があり、利用寄付金 718,000円の実績を収めました。

☆利用状況内訳

区 分	利用件数
老人クラブ	8
行政機関(鹿島市)	48
福祉施設等	39
各種団体	22
ボランティア	6
鹿島市社協	62
サロン等	11
合 計	196

鹿島市社協の福祉バス「さくら号」



(参考) 令和5年度 (86件 747,300円)

16. その他この法人の目的達成のために必要な事業

(1) 生活お困りごと相談

「生活困窮者自立支援事業」と合わせて、「対象者や内容を限定しない」、「断らない」生活全般の相談窓口とし、市民から広く相談を受け付けました。

その問題解決のプロセスの中で地域課題を見出し、新たなサービスや社会資源の創設、充実につなげました。

支援員が相談を受けて、どのような支援が必要かを相談者と一緒に考え「支援プラン」を作成し寄り添いながら自立に向けた支援を行いました。

○具体的には (※ご相談の内容は限定しません)

- ・生活に困っている、多額の借金がある
- ・税金、家賃、水道料、電気料等を滞納している
- ・働きたいけど、どうしていいのかわからない
- ・社会に出るのが不安、仕事に就いても長続きしない
- ・引きこもりの子どもの将来が心配 (家族の悩み全般)
- ・その他、何らかの「生きづらさ」や「悩み」を抱えている方 など

ご相談は (できるだけ、ご予約を)・・・
鹿島市生活自立支援センター
 (鹿島市社協内)
 電話:0954(62)2447

(2) 暮らしの手続無料相談会

佐賀県行政書士会(杵藤支部)の協力をいただき、鹿島市社協との共催事業として、生活のための各種の手続きについて、定期相談会(月1回)を実施しました。

相談内容は、「相続」、「遺言」、「死後事務」、「成年後見制度」、「借金」、「離婚」など多岐にわたりました。

☆相談実績 (R.6.4~R7.3)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相続		1	2		2		1	1		1	2	2	12
成年後見			1		1	1	1						4
遺言						1							1
その他		1						1	2	1		1	6
合計	0	2	3	0	3	2	2	2	2	2	2	3	23

(3) 鹿島市地域包括支援センターへの職員派遣(運営支援)

高齢者の総合相談窓口である鹿島市市民部保険健康課の「鹿島市地域包括支援センター」へ、鹿島市社協から、社会福祉士（1人）を派遣しています。これにより、高齢者福祉を中心とした、総合相談業務や、高齢者虐待、DV、成年後見制度などの権利擁護、認知症サポーター養成講座開催等に関する業務を支援し、鹿島市社協の事業との連携を深めました。

（４）日本赤十字事業の推進

日本赤十字佐賀県支部鹿島市地区（地区長：鹿島市長）の業務を推進し、会費募集を5～6月に広報活動を行い、区長会の協力を得て実施しました。【一般会費総額4,399,630円】

☆日赤会費募集状況（1世帯当たり目標額500円）（前年度実績 4,397,250円）

地区名	募集目標 世帯数	目標額	実績 世帯数	実績額
		円		円
鹿島	5,000	2,500,000	4,561.1	2,280,550
能古見	1,014	507,000	905.5	452,750
古枝	863	431,500	855.0	427,500
浜	940	470,000	802.0	401,000
北鹿島	1,172	586,000	933.7	466,830
七浦	840	424,000	713.0	356,500
小計	9,829	4,914,500	8,770.3	4,385,130
寄付金				14,500
合計				4,399,630

○九州八県赤十字大会に参加（福岡県開催）

前年度は佐賀県で開催を担当した「九州八県赤十字大会」が、福岡県のヒルトン福岡シーホークで12月16日に開催され、鹿島市地区から2人参加しました。

（５）義援金の募集

○ウクライナ人道危機救援金（R7.3.31までの累計 427,061円）

期間：令和4年3月2日（水）～令和8年3月31日（火）

○令和6年能登半島地震災害義援金（R7.3.31までの累計 3,548,395円）

期間：令和6年1月5日（金）～令和7年12月26日（金）

○令和6年9月能登半島大雨（豪雨）災害義援金（R7.3.31までの累計 9,393円）

期間：令和6年9月25日（水）～令和7年12月26日（金）

○令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金（R7.3.31までの累計 0円）

期間：令和7年3月6日（木）～令和7年6月30日（月）

（６）旧「吹上荘」関連施設の活用

「感染症予防」の影響で、施設での本格的な研修会や教室、講座などの開催は休止が続きました。今後は、地元の区長や民生委員との意見交換を実施するとともに祐愛会と連携して施設の有効活用ができるよう取り組みます。

社会福祉協議会の5つの活動理念

（1992年、全国社会福祉協議会が策定した「新・社会福祉協議会基本要綱」抜粋）

1. 住民ニーズ基本の原則	調査等により、地域住民の要望、福祉課題の把握等に努め、住民のニーズに基づく活動を進めます。
2. 住民活動主体の原則	住民の地域福祉への関心を高め、そこから生まれた自発的な参加による組織を基盤として、活動を進めます。
3. 民間性の原則	民間組織らしく、開拓性、即応性、柔軟性を活かした活動を進めます。
4. 公私協働の原則	福祉・保健・医療・教育の行政機関や民間団体等との連携を図り、行政と民間組織との協働による活動を進めます。
5. 専門性の原則	住民の福祉活動の組織化、ニーズ把握調査、地域福祉活動の計画づくりなど、福祉の専門性を活かし、活動を進めます。



昭和47年6月制定

このマークは、社会福祉協議会のシンボルマークです。（全国共通）社会福祉及び社会福祉協議会の「社」を図案化し、「手を取りあつて、明るいしあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

社会福祉法人 鹿島市社会福祉協議会

〒849-1311

佐賀県鹿島市大字高津原4326-1

鹿島市民交流プラザ「かたらい」3F

電話 0954-62-2447 FAX 0954-62-3959